

奇しくも昨年4月に中心商店街活性化案として、標題でFAX通信へと書きました。その後事情が何度か変転して新しいプロジェクトが発足して作業を急いでおります。

改めて他の都市・中心街の真似をしない君津独自のものをと考えておりましたところ、大手の銀行役員の方から「空中都市案」は私は大変面白いと感心しております。全国にその例がないのもう一度提案してみませんか」とけしかけられて構想を変えて書くことにしました。

『駅前大橋』が開通すると清和、小糸、常代方面、佐貫、大貫、飯野、貞元からさらには亀橋を渡って人見、大堀、富津の人々が君津駅へ流入する人口は6万人商圏と胸算用しておりましたがその君津駅は行き止まり、商店街も無いので混雑するのは朝夕の送迎の車のみとなって、せっかくの駅前の経済効果、にぎわいは木更津駅の西口、東口と全く同じ様相となっております。

まず地主がJRと市である広い君津駅構内に目を付けてみました。

1階は君津駅ホーム、2階は君津駅舎と同じ地盤でホームの上は駐車場として乗降、送迎、買い物客用に活用させてもらうことによって駅周辺への利便性を計り、流入する6万人圏の受け皿としたい。3階南側は東京湾、鹿野山等の展望を生かして名物飲食店街、北側は衣料品、日用品等とし、更に4階はコミュニティーを中心としたホール、ギャラリー、中小会議室、保育所……そして出来れば中心に会議所も移したいものです。

3～4階の運営は会議所が行い、自主財源の健全化に寄与させたいものです。

この空中都市の1番難しいのは、駅前市街地が南北に分断されていることが発展を阻害している大きな要因でありますので、2階の駐車場の構内中央道路を中野、坂田へと自由に乗降、出入、通過できることでもあります。

駐車場が広くとれるなら朝市、農産物の直販所を併設して相乗効果を高めたいものです。

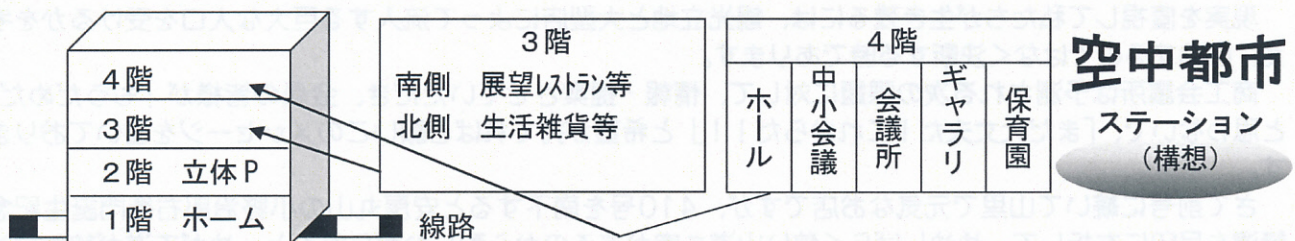
鈴木市長は、地元産業界の発展を強く望み、ブランド商品、文化、活性化のためには税収の1%を提供しようと言って下さっています。今までの市長には無かった郷土愛と積極性を示して下さいます。

こうした市長の姿勢に対して私達もまた期待に背かぬような賢明な努力で応えなければならないと思っております。

会議所内にも①ブランド商品検討プロジェクト②税収1%活用プロジェクト（いずれも仮称）を提案して、折角の市長の地元産業界、市民への好意を裏切らない様、頑張って参りたいと存じます。

空中都市計画…若し皆さんがやる気になれば予算は出てくると思います。

「捨てないから夢近づいてくる!!」



**空中都市**  
ステーション  
(構想)